

会議概要録

開催概要

名称：第8回 東区自治協議会 第三部会

日時：平成20年12月11日(木) 午前10時00分～午前11時30分

場所：東区役所分館A会議室

出席者：委員

滝澤委員、岡村委員、大河内委員、齋藤委員

小川委員、星島委員、鷺津委員、駒田委員

(欠席：小嶋委員、和田(一)委員)

：オブザーバー

財団法人亀田郷地域センター

プロジェクトマネジャー 渡辺 徹 氏

：事務局

政策企画課、建設課、産業振興室

審議内容

東区のまちづくりと交流人口の拡大について

財団法人亀田郷地域センターの事業概要とともに、パワーポイントを使い「水の都新潟の国際化戦略」の構想について説明していただいた。

- ・新潟の魅力である景観の活用と合わせた、モノレール等の公共交通整備の必要性
- ・国際展示場誘致をはじめとした、交流人口の拡大に向けた提案

【主な意見交換内容】

- ・この構想に対する行政の受け止め方、取り組みの現状はどうなっているのか。

市には何回か説明をしてきた。その積み重ねで、関係部署からもそれなりの理解を得ることができたと見ている。また、市だけでなく、国、県、あるいは経済界などに対しても提案をしている。少しずつではあるが、実行に移せていけたらと思っている。

- ・地域センターの「地域づくり助成」の助成金はどこから拠出されているのか。

国、県からの補助もあるが、基本的には亀田郷収入の一部を地域に還元するという考え方で、助成金を拠出している。

- ・交通体系の中にモノレールを取り入れるということであるが、どのように地域が関わっていくのかも重要であると思う。

- ・亀田郷には、田畑の宅地化や用水路の暗渠が進んでいる地域がある。開発後も貴重な水辺空間を残して、水辺の生き物などに接することができるようにしてほしい。

水辺については鳥屋野潟の浄水なども行っている。亀田郷にとって、水は重要な資源の一つであり、生命線であるといえるので、今後もしっかりと水辺について取り組んでいきたい。

- ・ 亀田郷を囲む信濃川、阿賀野川、小阿賀野川、そして通船川で、舟運による新交通を導入することも、環境、観光面において効果があると提案しており、一緒に考えていきたい。
 (地域センターでも、以前から舟運の構想はあった。河川管理者との話し合いの場を設けることは可能なので、舟運ネットワークについて、提案してみると良いのではないかと。)
- ・ 構想では、市役所周辺にモノレールを通すことになっているようだが、中心市街地の道路は狭く、支柱を建設して運行させることは難しいのではないかと。
 (説明の中での構想は理想形であり、期待の部分も含んでいる。実施が見えた段階で細かな調査も必要になると考えており、じっくりと勉強していきたい。)
- ・ 西港の整備には、県営埠頭、臨港埠頭も一体となって取り組む必要がある。
 (東区を視察した際に、港、埠頭も拝見させていただいた。臨港埠頭はお世辞にもきれいだとは言えない。新潟市の玄関口という重要な場所であるので、何とかしていかなければならない。)
- ・ 朱鷺メッセ脇にマリナーを建設するという提案があったが、臨港埠頭の形状もマリナーに適していると思われる。マリナー、親水公園、モノレール駅などを山の下地域にも整備し、多くの機能を備えた市民の憩いの場所としてほしい。
 (まさに臨港埠頭はマリナーに最適の形状をしているので、構想の中に入れていければと感じている。)
- ・ モノレール建設の財源はどのように確保するのか。
 (行政の負担が大きくなると考えている。国の持分が大部分を占めることになると思うが、県、市にも負担をお願いしたい。しかし、行政の財源も潤沢とは言えない状況なので、経済界からのバックアップも必要である。)
- ・ この構想は空港や港が立地している東区に関わる場所が大きいので、今回の部会で提案されたことは地域センターに伝えていきたい。

その他

- ・ 区役所新設について、8区の中で東区役所が最も優先的であると新聞報道があった。
- ・ 区バスについて、先日新潟交通へ次年度に向けた相談をしてきた。その結果も踏まえて、今月もう1回の部会を開催し、ルートや便数などの見直しをさせていただきたい。

次回の開催について

- ・ 日時：平成20年12月19日(金) 午前9時00分～
- ・ 場所：東区役所分館B会議室